南山のアテ林

洲巻のアテ林

天然記念物

１３．　宝立山アテ天然林

■指定年月日　平成 18 年 4 月 7 日（2006）

■所　在　地　若山町南山テ40・洲巻ソ17
（ほか輪島市内２箇所）

■指 定 面 積　南山 3,966㎡　洲巻約 1,000㎡

■所　有　者　南山区・洲巻区

県木として知られるアテの呼び名は、植物分類上ではヒノキアスナロの地方名である。この樹種はヒノキ科のアスナロ属に含まれるアスナロの変種とされる。

アテは、北海道の渡島半島以南に分布し、太平洋側では北関東、日本海側では能登半島にかけて分布し、珠洲市と輪島市にかけて広がる宝立山系の奥山に、伏条更新や実生による天然林と考えられる植生が認められる。

珠洲市側の林分は、宝立山の山頂に近い急峻な北斜面の岩盤上にあって、樹高 13 ～ 14m、幹周 100 ～ 125cm を測るアテが確認できる。混成する樹種は冷温帯域の急峻斜面の植生を反映している（若山町南山）。

もう一ヶ所は、宝立山に近く若山町洲巻の集落から比較的近い「水守り山」として大事に扱われてきた山中に、樹高 20m、幹周 236cm を測るアテを最大に小林分が見られる。

これらのアテの樹幹や樹皮は多様で、直径階別の本数構成からみても人工林とは考え難い。「宝立山アテ天然林」はアテ天然分布の南限地として極めて貴重である。